

インタビュー

# 多職種勉強会

「こんな時どうしてる？」  
共有しよう！ 新型コロナウイルス対策」

新型コロナウイルスの感染が拡大する中、医療・介護・福祉の現場では、治療やサービスの提供に加え、徹底した感染症対策や発熱患者への対応など、気の抜けない日々が続いています。

今回は、現場で得た経験や今後の対策について学ぶ「多職種勉強会(オンラインで実施)」で話を伺いました。



## 新型コロナウイルス感染拡大で感じたことは？ そして対策に必要なことは？

### 宮村 枝里子さん

感染症対策は、「自分が感染しない」「人にうつさない」「早期発見する」ことを目的に日常的に行う必要があります。

対策といっても特別なことではなく、マスクの着用や消毒をすることが大切です。

しかし、このわずかな生活習慣の違いが大きな差となるため、日常的な行動が非常に重要となります。私たち看護師も徹底した感染予防対策に取り組んでいます。

今まで以上に緊張感があり、負担も大きくなっていることは確かですが、全員が正しい知識を持った上で、感染防止に励んでいきます。

### 平岡 直人さん

新型コロナウイルスの感染症対策は、一定の緊張感を保ちながら、油断しないことが大切となります。また、様々な情報が行きかう中、厚生労働省など公の機関の情報に基づいた正しい知識を持つことも大切です。フェイスシールドやガウンなど個人用防護具(PPE)は、第一波のときから使用を開始しました。ワクチン接種も開始されることから、出口が見え始めていると感じています。希望を持つことで新たな力が湧いてくると思うので、医療関係者をはじめ、市民の皆さん全員で力を合わせて、この難局を乗り越えていきましょう。

### 木村 圭佑さん

医療や福祉の仕事は、人との接触が不可欠です。松阪・多気地区地域リハビリテーション連絡協議会の中で、アンケートを実施したところ、日々対応がせまられる中での現場の不安や取り組みの現状について知ることができました。

従来の感染症対策では、感染拡大を防ぎきれない不安の中でも、正しい情報を共有し、理解を深めながら、今後も関わっていききたいと思えます。そして、サービスを受ける高齢者に対し、スタッフや家族など周囲がウイルスを持ち込まないことが重要となるので、今後も地域全体で対策に取り組んでいきましょう。



(左から) 松阪市民病院 感染管理認定看護師 師長 宮村 枝里子さん  
松阪地区医師会 会長 小林 昭彦さん  
平岡内科循環器科 院長 平岡 直人さん  
松阪・多気地区地域リハビリテーション連絡協議会 会長 木村 圭佑さん